

## 中学生教育委員会

〈学校生活の向上を〉

1月6日(月)、「中学生教育委員会」が揖斐川町役場で行われました。この取り組みは、自分達の学校生活について話し合うもので、町内6中学校から1、2年生の代表16人と教育委員、教諭など約50人が参加しました。



▲意見を述べる中学生委員

中学生委員は、全校で重点的に取り組むテーマを決定するために多くの意見を出し合いました。1時間以上におよぶ議論の末に「思いやりのある言動をしよう」と「地域の輪を広げよう」の2つを「生徒会サミット宣言」として採択しました。

司会進行を務めた、揖斐川中学校2年生の瀬川高輝さんは「伝統を大切ににより良い中学校にしていきたい」と話しました。

## 社会を明るくする運動作文コンテスト入賞を報告

第63回社会を明るくする運動の作文コンテストで入賞した北方小学校6年生の杉山愛葵さんと谷汲中学校3年生の竹中京香さんが1月7日(火)、役場を訪れ町長に受賞を報告しました。

「みんなで創る明るい社会」という題名で学校で起きた小さな事件から感じた思いを書いた杉山さんは、岐阜県保護司会連合会長賞を、「社会を明るくするために」という題名で、ネット犯罪やネット上のコミュニケーションの難しさについて書いた竹中さんは、岐阜県更生保護女性連盟会長賞を受賞しました。



▲受賞した竹中さん(中央)と杉山さん(右)

杉山さんは「地域を明るくするには人と人とのつながりが大切」、竹中さんは「インターネット上のコミュニケーションで気をつけなければいけないことを書きました」と話しました。

## 春日燈籠まつり

〈無病息災を願う〉

1月11日(土)、無病息災を願って男衆が燈籠を奪い合う「燈籠まつり」(岐阜県無形民俗文化財)が、春日六合下ヶ流地域の薬師堂で行われました。このまつりは、地域に伝わる伝統行事で、燈籠の一部を手にする、その年の無病息災や家内安全に御利益があるとされています。



▲燈籠を奪い合う男衆

燈籠は、竹を組み合わせた骨組みに行灯(あんどん)が取り付けられ、縁起ものの飾りなどが施されています。薬師堂の中央につるされた燈籠の下では「ションガйна踊り」という独特の節回しの舞が奉納され、灯籠が落ちるのを待つ男衆からは「オイサ、オイサ」の掛け声が沸き上がりました。禰宜(ねぎ)がロープを引いて燈籠が落下すると、男衆は一斉に燈籠を奪い合い、1年の幸運をつかみ取りました。

## 星を見る会

〈望遠鏡で木星を観察〉

1月11日(土)と24日(金)に西美濃天文台主催の冬の星空を眺める「星を見る会」が開かれました。11日は養老鉄道揖斐駅前で、24日は胥永グランドで行われたこの催しには、町内の親子連れなどおよそ100人が参加しました。



▲望遠鏡を覗く参加者

参加者らは大型の望遠鏡で太陽系最大の惑星「木星」の赤みを帯びた表面や、木星の周りを回っている衛星を観察したり、おうし座の星団の「すばる」などを観察しました。望遠鏡を覗いた子どもたちからは、肉眼と見え方の違う星や星団の姿に、歓声が上がっていました。

また、この両日は、冬の星座の代表格と言われるオリオン大星雲も観察することができ、参加者らを喜ばせていました。



▲ファッションショーの様子

1月18日(土)、揖斐高等学校の学習成果発表会が大野町総合市民センターで開かれました。

この学習成果発表会では、卒業を控えた3年生の生徒が各専攻やコースごとに取り組みや作品を発表しました。

3年生の生徒137人が学ぶ同校には、普通科、普通科ビジネスコース、生活環境科の和装、服飾、福祉、食物コースがあり、それぞれのコース別に発表が行われました。

テーマを「光彩〜未来の色を描く」とした発表会のステージでは、艶やかな着物の着付けやスライドでの活動紹介、フェンシング部の実演、ファッションショーなどがあり会場を魅了していました。

また、会場内には作品の展示などもあり、来場者の目を楽しませていました。

**揖斐高校「学習成果発表会」**  
 ～艶やかな衣装で会場を魅了～



▲受賞報告に訪れた山口さん

1月20日(月)、第17回全国児童生徒地図作品展で国土交通大臣賞を受賞した揖斐川中学校3年生の山口愛加さんが揖斐川町役場を訪れ、町長へ報告をしました。

受賞した山口さんの作品「徳山ダム〜立体地図で湖底を見る」は、等高線に合わせて発泡スチロールを積み合わせた立体的な作品で、徳山ダム周辺の山々とダム湖が細かく表現されています。

報告に訪れた山口さんは、「徳山ダムの場所に昔は集落があったことを伝えたかった。制作に一年以上かかったが受賞できて嬉しい」と喜びを語りました。

また、報告を受けた宗宮町長は「地域を題材にしてくれて嬉しい。この作品を残してくれたことは、大きな成果」と受賞を称えました。

**全国児童生徒地図作品展**  
 揖斐川の中の子さんが大臣賞を報告



▲対応を発表する国土交通省の職員

1月25日(土)、国土交通省越美山系砂防事務所主催の越美山系大規模土砂災害合同防災訓練(机上訓練)が揖斐川町役場で行われました。

国や県、ダム管理者などの14機関、約100名が参加した訓練は、本県市根尾を震源地に震度6強の地震が発生し、揖斐川支流で土砂災害が発生したことを想定して行われました。

今回で3回目となるこの訓練は、機関ごとに災害発生時からの対応を発表し、お互いの課題を見つめる「学習型」と呼ばれる方式で行われました。

災害発生時の現場確認や情報収集、避難勧告、復旧工事など状況に応じ、機関ごとに役割を確認しながら連携を高めました。

**大規模土砂災害合同防災訓練を実施**  
 ～各機関が連携を高める～



▲一斉放水の様子

1月26日(日)、三輪神社で揖斐川町消防団や揖斐郡消防組合などによる文化財防火訓練が行われました。

訓練の行われた1月26日は、文化財防火デーと定められており、適切な消防活動や防火対策など、関係機関や地域の意識を高める運動が全国的に展開されています。

実施場所となった三輪神社には神輿や大般若経など町重要文化財があり、この日は、神社拝殿からの火災からそれらを守る体制で訓練が進められました。

訓練には、消防団員や女性防火クラブ員、消防組合職員など約150人が参加し、重要物品の搬出や初期消火、応急手当てなどで連携を確認し、最後に一斉放水が行われました。

**三輪神社で文化財防火訓練を実施**  
 ～1月26日文化財防火デー～

## 叙位(従六位)受章

平成25年11月14日(木)に亡くなられた小林三三(さん)さん(外津汲)が従六位を叙され、宗宮町長よりご家族へ伝達が行われました。

小林さんは、昭和23年から31年間、久瀬村に奉職し、豊富な経験と卓抜なる識見をもって地方自治の発展に努められ、その後、教育委員会委員長、助役等を歴任され、久瀬村の発展に大きく貢献されました。

また、昭和58年4月には久瀬村長に初当選され、3期12年の永きにわたり在職されました。在職中は、議会並びに住民の理解と協力を得ながら献身的に村政運営に精進され、活力ある住みよい村を目指して、産業の発展、教育、生活環境、福祉の向上に貢献されました。

これらの功績が認められ、この度、従六位を叙されました。受章おめでとうございます。



▲叙位の伝達が行われました

## 「福は内」節分厄払い行事

谷汲山華厳寺

2月3日(月)、谷汲山華厳寺で、谷汲観光協会主催の節分厄払い行事が行われました。

毎年恒例のこの催しには平日にもかかわらず約8000人の参拝客が訪れ、賑わいを見せていました。

13時から華厳寺本堂で御祈祷が行われ、その後本堂と高さ4メートルの赤鬼が設置された仁王門の2か所で、家内安全、無病息災などを願い福豆がまかれました。参拝客は、福をつかみ取ろうと「こっちにも豆をまいて」などとアピールし、必死に手を伸ばしていました。また、境内では、甘酒の無料サービスも行われ来場者を喜ばせていました。



▲仁王門前で行われた豆まきの様子

## 中学生海外派遣事業

セントジョージ市で学ぶ

町内の中学2年生の代表17人が、1月23日(木)から31日(金)まで、アメリカ合衆国ユタ州セントジョージ市で研修を行いました。

派遣団の皆さんはホームステイし、アメリカ人の家庭の温かさに触れました。スノーキャニオン・ミドルスクールとパインビュー・ミドルスクールの学校訪問では、日本や町の自然・歴史・文化・学校生活を英語で紹介しました。

スノーキャニオン・ミドルスクールでは、調理実習を行い、一緒に朝食を食べました。その後、ペアとなった生徒が受ける授業に実際に参加しました。

また、デザートヒルズ・ミドルスクールでは、英語で自己紹介した後、学校内を見学して交流を深めました。



▲記念撮影  
(パインビュー・ミドルスクールにて)

セントジョージ市に滞在する最後の夜、さよならパーティーが行われ、書道、折り紙、空手、巫女舞などの日本の文化を英語で紹介すると、ホストファミリーの皆さんは、興味深そうに聞き入っていました。

派遣団の皆さんが今回の経験を活かし、学校や地域社会のなかで、今まで以上に活躍されることを期待しています。



▲授業に参加  
(スノーキャニオン・ミドルスクールにて)



▲さよならパーティーで日本文化を紹介